

(1) 住居系景観形成のモデル基準図

屋根

屋根は、勾配屋根を主体とし、周辺と高さを揃える事で、周辺との整合を図るよう配慮します。

高さ・規模

屋根や軒、階、最上部の高さは周辺との連続性に配慮します。
規模が過度に大きく感じないよう、立面形態や、敷地外周部のゆとりスペースの確保に配慮します。

色彩

色彩は落ち着いた色を基調とし、壁面は暖色系、屋根面はグレー系の色とします。

	色相	明度	彩度
1階外壁基調色	5 Y R	4	4
2階外壁基調色	5 Y	8	2
屋根基調色	5 P B	5	2

地域のシンボル樹

外壁

圧迫感や単調な壁面を避けるため、1階壁面の後退や、1、2階壁面の色彩に変化を与え、周辺との景観の調和に配慮します。

バルコニー

物干しは外部から見えにくい位置に配慮します。
手摺部は本体と形態意匠を合わせます。

建築緑化

壁面の緑化に配慮します。

外構と緑化

敷地内周辺やまち並みに配慮して生垣を設けます。
低中木及び花・紅葉等の彩りに配慮します。

道路

付帯設備類

設備機器は生垣の内側に配置し外部から見えにくいように配慮します。

道路

付帯施設

ごみ置き場は、生垣等で周囲を囲み、露出しないように配慮します。

夜間照明

夜間照明は、必要最小限の数量・光量・光源・高さに配慮します。

配置

背後(周辺)のシンボル樹の見通しを確保するため建築物の配置に配慮します。
建築物は道路とのゆとりスペース(壁面後退)の確保に配慮します。

外構と緑化

駐車場の舗装面は緑化に配慮します。



人目視点